



2007/08 WEEKLY BULLETIN

国際ロータリー第 2790 地区第 3 分区 B

市原ロータリークラブ会報



第 2151 回例会 2008 年 1 月 16 日(水) SAA / 川島会員 会報担当 / 山本会員

例会場 五井グランドホテル 市原市五井 5584 - 1 事務局 TEL 0438-38-3535

点 鐘 市原 RC 会長 角谷修
ソング 我等の生業 四つのテスト唱和
お客様 市原市国際交流協会 西岡紀代一様
彦根真澄様

澤井会員：今年度の景気と金融情勢について



会長挨拶 市原 RC 会長 角谷修



皆さん こんにちは！

今日のかねてお知らせの通りクラブフォーラムを開催致します。山崎会員に司会をお務めいただき、私達のクラブ会員の中からそれぞれご専門の会員の方にコメンテーターをお願いしてあります。年の初めに当たり各界を代表して私見を交えながら現状を分析していただき各界の景況報告と今後の予想をお話いただきます。

題して「今年はどうなる 私の予測」です。

どうぞお楽しみにゆっくりお聞きください。

委員会報告

津留会員研修委員長 2/20(水)18 時より淡粋にて、前期新入会員の研修会を行います。

市原市国際交流協会へのコピー機贈呈式



1 月度クラブフォーラム

山崎会員：司会・コメンテーター紹介



1 . 2007 年の景気と金融情勢

景気は外需主導で緩やかに拡大

但し、後半はサブプライムローン問題、原油価格高騰、改正建築基準法の影響で足踏み状態に

株式相場も年間では値下がり、今年に入っても調整局面が続く

2 . 2008 年の見通し

<前提条件>

世界経済：欧米は減速するも新興国は引き続き好調

国内企業部門：輸出が引き続き牽引役に

個人消費：賃金伸び悩み、ガソリン価格等の上昇で回復は緩やか

設備投資：拡大するも更新需要の一巡、国内需要の低迷で限定的

住宅投資：前年の揺り戻しで回復へ

<見通し>

国内景気

外需主導による緩やかな景気回復が続く

GDP 実質成長率で 2 % 程度

金融情勢

金融政策は当面据え置き。次回利上げは夏以降か

株式相場は年末で 1 万 8,000 円台の回復を期待

今年の干支は「戊子」。兜町の相場格言によれば上昇相場に

まとめ

実感のない景気回復

内需伸び悩みを世界経済が下支え

グローバル化・構造改革の歪

持続的な成長実現のために

グローバル化・構造改革の推進とともに痛みを和らげる方策が必要

丹生谷会員：今年度の電力情勢について



(kWh)

	H19.4～11	H18.4～11
東京電力(株)販売電力量	約 2115 億	約 2051 億
県内東京電力(株)販売電力量	X	Y
県内東京電力(株)発電電力量	A	B

東京電力(株)販売電力量 前年比 103.1%

県内東京電力(株)販売電力量 前年比 101.7%(X / Y)

県内東京電力(株)発電電力量 前年比 124.2%(A / B)

千葉県内発電電力量の内、千葉県内での消費量

H19 49.7%

H18 60.8%

- ・電力需要は堅調に伸びている。千葉県内電力需要は全体よりは低目。
- ・柏崎刈羽原子力発電所全台停止を受け、千葉県内の5つの火力発電所が焼き増ししているため、千葉県内の発電電力量が増加。柏崎刈羽原子力発電所の復旧まではこの傾向が続く。
- ・千葉県は電気を首都圏へ送電している。従来は50%程度であったが、火力発電所の焼き増しから増加している。

宇都宮会員：京葉コンビナート設備投資動向について



京葉コンビナートにおいて、この10年は国際化の波を受けて大リストラが断行された。リストラにより、アウトソーシングが増加した。(委託、保全、厚生面も) 実態として石化では、汎用品は海外で、高機能品は国内生産という状況です。また、脱石化が進んでおり、電子材料と周辺事業が増加している。投資案件としては研究開発関連で新規商品の生産設備が

ある。そしてもう一つは保安対策です。設備が40年経過し、老朽化対策がまだまだ必要になると感じています。大競争時代を向かえ、原油高、円高とコンビナートの生き残りはさらに熾烈になる。

選択と集中と言われるが、事業撤退の判断は経営トップによるものの、この京葉地区の立地はとても貴重であると考えます。

川島会員：臨海大企業と地場産業との関わり合いについて



私は臨海大企業に勤め、30歳で独立し、両方を経験したが難しいテーマだと思う。

臨海地域の大企業に勤める人は、地元の人はい少ない。地場企業がその中に入るのはなかなか難しい。また、地元企業の努力も足りないのでは。

市原市は28万人の都市だが、縦に3つ(八幡・五井・姉崎)、横に3つ(臨海部・市街部・山間部)に分かれており、なかなか一つにまとまらないという限界がある。商工会にも臨海企業は権限を持った人が出てこないのので、行政の役割にも期待したい。

深川会員：本年度の不動産動向 特に市原市について



私の認識を述べさせていただきます。自分勝手にトンチンカンなことを言うと思いますが、寛容に受け流して下さい。

1. 不動産とは動産の対語で動かせないもの、土地の定着物、付着物を言います。例えば土地、建物、立木などです。余談ですが、借地法が適用となる建物の定義は、建物が土地に定着あるいは付着していると言う事です。ここで言う定着とは建物の基礎の事です。ですから、借地法の適用を受けない簡易な建物とは、原則的に基礎を持たない移動可能な建物を言います。

元来不動産は空気と同様に神の所有あるいは自然なも

のであり、人が自分勝手に、神の目を盗み、自分達だけの狭隘な世界で、時限法として所有権や賃借権の登記を行っているだけだと考えます。人の支配を逃れれば元の自然物に帰るだけです。

2. 市況とは、商品、株式などの取引の状況、市場の景気・商況を言います。市場の景況感のことです。

市況は英語で「マーケットコンディション」と言います。マーケットそのものは自然界の様々な現象とは異なり、人の生活・社会の成立・発展・活動の中から自然発生的に生まれたものです。万が一、人間界が終わりのときを迎えれば、当然マーケットも消滅致します。

マーケットは、需要と供給のバランスにより生まれ、決定され、自ら意思を持つが如く動き、時に人の意表をつきます。これを「マーケットメカニズム」と言い、アダムスミスは、「マーケットメカニズム」は「神の見えざる手により導かれる」と表現しています。

では、何故需給が変化するのか、品物の値段は何故上下するのか、何故、景気がインフレになったりデフレになったりするののか。この疑問に対しては、皆さんも良くご存知のアダムスミスやケインズの「ミクロ経済学とマクロ経済学」を筆頭として、市場が発生した昔から数々の経済学者がその疑問を持ち、考え、そして、その説明をしています。

市況の持つ最も基本的で重要な要素は、人だけが持つ価値観が原因です。価値観は相対的なものであり、普遍、絶対的なものではありません。おのずと市況は地域を限定し、時あるいは時代を反映することになります。元々人間界の作り出したものなので、人々の心の持ち方に左右され易い要素も持ち合わせています。

3. 次に私達が置かれている現在の環境について述べます。

周知の通り、日本は生産国であり換言すれば輸出国です。そのお得意様である消費大国アメリカの経済に日本経済は左右されます。

サブプライムローン問題に端を発したアメリカ(世界)経済の最悪のシナリオ、は、世界的な過剰流動性も無くなり、昔馴染みの信用収縮・クレジットクランチを通じて実態経済が更に悪化するという懸念です。

後れまいとする競争心・射幸心からも価格は値上がり、反対に不安感危機感・狼狽から値下がりします。市況は

人の心の変化に連動致します。ときとして、総体を見ず、一部分だけを捉え、過大評価や過小評価をします。「買われすぎ」、逆の場合は「売られすぎ」が起こります。

現在、アメリカのリセッションは避けられないものと考えられています。

クリーンSPANは「アメリカ経済は既にスタグフレーションに陥った。」と言っていますし、ゴールドマンサックスも「リセッションに入った。」と言っています。FRBのバーナキン議長も景気減速を確認し、FFファンドレートの利下げを示唆しました。

4. 今の不動産市況について述べます。

景況感は悪化しています。景気減速懸念から、強気の人でも「様子見」、普通の人には「在庫減らし・減速、調整状態」、弱気の人には「換金売り」です。特にマンションデベロッパーはこの傾向が顕著です。

不動産は株価の動きに半年遅れで連動します。以前はこう言われたものですが、現在は、タイムラグは殆どありません。情報社会の為です。

売り物件が少しずつ数を増やしています。需給は悪化の一途ですが、将来のことは、まだ分かりません。何故ならば、市原市以南の売買はそれほど落ち込んでいません。土地神話が残っているのか、下げ過ぎたので、これ以上、値下げする余地がないと高をくくっているのか。業者は経済にそれほど関心がありません。タイムラグだと思いますが、分析不能です。

今、景気が如何なる状態にあるのか、インフレなのかデフレなのかは、その時、その渦中に在る者にとっては、判断が非常に難しいのです。

景況感も相対的で何時、何処、何を基準値にするかで異なってきます。

業種・国・地域・使用通貨等により判断は分かります。過去を振り返って見て、初めて「あの時から景気が減速していた。」等とはっきりと分かるものです。その意味で「景気減速懸念」です。

焦点はアメリカ経済がリセッションで留まるのか、その先のデフレまで行ってしまうのかと言う事です。

弊社にとって肝心なことは、人の噂に動ぜず、軽挙妄動を慎み、確証を持って堅実な経営をすることだと考えます。

大事なことは、日本の実態経済が、今後どうなるのかです。

私は、不動産市況は悪化すると思いますが、全員が同じ意見なので逆もあり得るかなと思っています。市況は、人々の予想通りに動かない特性を持っています。予想外の事が往々にして起きます。

最後に私事で恐縮ですが、昨年末、尊敬する某会長から、「人間は、自分の期待値と現実の値のギャップを、喜びや悲しみ、怒りという感情として表現する。大事なことは、全ての事柄に期待を持たず、現実を現実として、其の儘受け入れることの出来る、強い心と平常心を持つことだ。そして、人が自然の理合など、己を取り巻く環境や人の性を変えられる術は無い。理を知り、己を律することが肝要だ。」とご教授頂きました。

これが、如何なる市況の変化にも打ち勝つ極意だと思います。

でも万が一、師の教えと私の理解した内容が師の意思と反するものであるならば、誠に失礼ながら師は剃髪も楽そうですし「新、歎異抄」でも執筆して頂ければ幸いです。

余談になりますが、正月に日産自動車、中南米輸出部に勤務の友人と夕食を食べました。

彼は「アメリカ経済のリセッションは深刻にはならないと思う。何故なら「サブプライムローン」の問題だって日本のバブル期の不良債権とは違い、ヨーロッパを筆頭に世界中にリスクを拡散してしまった。「アメリカに失われた10余年」なんて日本の幽霊だよ。証券会社等が市場のボラティリティを上げて一儲けを企んでいるのでは無いだろうか。

原油高だって、WTIの採掘原価が約15ドル位だし、アラスカが30ドルまで行かないと思う。アメリカは石油の消費大国だけど産油国でもある。自国で30ドルまで出せば何とか賄える。中東の原油の採掘原価が4~5ドルだから安いほうから使っているだけだよ。それにアメリカがリセッションに陥れば中東の産油国だって今の様には儲けられない。エタノールとか代替エネルギーの開発も進むだろうし、どちらかが一方的に儲けすぎることは出来ない仕組みになっている。アメリカがリセッションになることは、日本だけでなく、世界中が、中東・中国でさえも好ましく思っていないと思うよ。

ドル安の問題だって、日産は日本で生産している自動車は総生産量の30%に満たない。其の内、自国消費分もあるし、今は、10数年前の円高に懲りて現地生産だ。

エコノミストは、総売り上げについて、何円円高だから、これ位減収になると言っているけど、それは昔話で今はそうはならない。それに、円高になれば原材料はその分安く仕入れられる訳だから、そんなの関係ない。ドルにしても円安のときに半年分調達するので日々の為替価格の変化に影響は受けない。他の輸出企業も全て同じ方策をとっている。エコノミストは一部分だけクローズアップして、自論の正当化の材料に使っているのかな。それに、指数ばかり強調して公式に当て嵌め陶醉しているよね。後々予想が外れたときの自己責任回避論としか思えない。

何と言っても指数はタイムラグがあり遅行指数なので、今現在の判断には当てにならない。あんなの、「誰もが同じ行動をしろ。」と言っているのと同じだ。馬鹿馬鹿しい。と酔って騒いでいました。

始関会員：今年度の個人消費動向について



個人消費は景気動向に若干のタイムラグはあるもののほぼ一致するので、澤井支店長が先程今年の景気予測を、国内外の様々な要素があるものの、年後半には持ち直し今年度と同じ2%台の成長になると仰っておいりましたので、是非期待したいと思います。

昨年末から今年の年初にかけて経済界のトップが賃上げを容認する発言がありました。

消費は、雇用の安定と賃金の上昇により、動向が左右されるので実現してくれると良いと思っております。しかし原材料の値上げや、米国のサブプライム問題が景気減速につながると如何でしょうか。

市内の消費環境は閉塞感が覆った10年ほど前と比べて、最近の2~3年は臨海部の企業の好業績を反映し、消費単価、客数とも若干上昇してきたように思います。しかし、それ以前が大変落ちこみましたから、回復といいましてもH13年までにはなっていないのでは。

市原市の統計調査(18年版によると)市原市内の小売り販売額は約2,350億円、店舗数は1,871店です。

平成10年から5年間で - 219店、販売額 - 535億円と20%減少しました。原因は市外に競合店が出店し市内の商圈が奪われた結果やまた最近は、通販や生協の利用者が約15%以上増えているとも言われますので、その影響かもしれません。それと多きのは平成14年~17年まで賃金は減り続けたことによると思います。

一方、飲食店の店舗数はほぼ横ばいですが、2001年に飲酒運転による取り締まりと、罰則強化による影響で、市内のアルコール消費が45%減少しました。因みに平成13年度は1,320万円ありましたが、平成17年度は743万円に激減しましたので、売上は当然2~3割減少しました。

個人的な事を申し上げて恐縮ですが、新年の業界関係者や、各企業期待動向が反映されると言われる「新年会の入りこみ件数」「人数」ですが、共に今ひとつ伸び悩みです。諸費減少の中での難しい経営がまだまだ続きそうです。

ニコニコ・ソーリーボックス

上條会員 2008~09年度RI会長テーマがRIウェブで公式発表されました。

「Make Dream Real」(夢をかたちに) このテーマに崎山DGEがどのような具体的活動を出されるのか今から楽しみです。

出席報告

前々回確定 72% 本日出席者 40名

本日欠席者 11名 本日出席率 78%

点鐘 市原RC会長 角谷 修